

令和3年度全国公共図書館協議会

定期総会 記録

- 1 日時 令和3年6月25日(金) 午前10時～11時
- 2 場所 東京都立中央図書館(オンライン開催)
- 3 出席者 90名、委任状提出者597名
- 4 来賓挨拶

国立国会図書館長	吉永 元信 様
文部科学省総合教育政策局地域学習推進課	
図書館・学校図書館振興室長	平川 康弘 様
文化庁著作権課長	吉田 光成 様
公益社団法人日本図書館協会理事長	植松 貞夫 様

5 議題

I 協議事項

- (1) 令和3・4年度 役員の選出(案)
- (2) 令和2年度事業報告
- (3) 令和2年度決算
- (4) 令和2年度会計監査報告
- (5) 令和3年度事業計画(案)
- (6) 令和3年度予算(案)
- (7) 令和3年度表彰

II 報告事項

- (1) 著作権法における図書館関係の権利制限の見直しについての動向
- (2) 「子供の読書活動の推進に関する取組状況、要望」(自由民主党政務調査会文部科学部会長照会)について

6 記録

協議事項(1)～(6)について承認された。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした令和2年度総会の令和2年度理事会における代行決議についても承認された。ご意見は以下のとおりであった。

<ご意見>協議事項(5)

著作権法改正で入手困難資料の電子化が大きく進んでいくと思われる。また、コロナ禍をきっかけに多くの公共図書館で電子書籍サービスの導入が進んでいると思う。

しかし、様々な統計やアンケートを見ると、コンテンツの充実が課題であるという意見を多く見かける。導入した後に、選書基準に合うコンテンツが少なく苦慮しているのではないかと推測する。

上記のような状況を考えると、本当の意味でDXを進めるためにも、全国公共図書館協議会としても、出版界、国立国会図書館等、様々なステークホルダーと対話を重ねていく必要があるのではないかと推測する。

ビジネスチャンスをつぶすことなく、全員が納得できる着地点は難しいと思うが、マクロな視点で総合的に検討してほしい。

【事務局】

電子書籍サービスでは、導入後の課題も多いということは承知している。

全国公共図書館協議会としても、様々なチャンネルを通じて得られた情報を提供したり、なんらかの形で情報を吸い上げるということも考えていきたい。